

つどい

第 432 号
2024.10.1

発行・豊中歴史同好会
責任者 小川 滋

豊中事務所 〒590-0172 豊中市
〒590-0172 豊中市
電話 090-7000-0000 090-7000-0000

古墳出現期の様相——豊前を中心に——

前行橋市歴史資料館館長 宇野 慎敏



一、北部九州最古級の双方中円墳への疑問
二〇二一年十二月の西日本新聞にて「最古級の双方中円墳か」という見出しで大々

的に報道された福岡県うきは市の西ノ城古墳がある。中心の円丘部は長径約四〇メートル、短径約三三メートルの不整楕円形を呈し、高さ約四メートル以上である。墳頂部は中世の山城で削平されており、すでに埋葬施設が見えるほどに削平されている。円丘部の北西側と南東側にそれぞれ低い突出部があり、全長約五六メートルになる。現墳丘の高さの三分の二は礫石を含む地山土であり、その上三分の一が盛土部分である。円丘部は後世の削平を受けているとはいえ、かなりのいびつさが見られる。時期

はうきは市教育委員会発表では、庄内式期から布留式古段階あたりと考えられる土器が出土しているとのことであった。
筆者はこうしたいびつな、そして低い身近な突出部（前方部）をもつ古墳を定形化した双方中円墳と呼称して良いのかと疑問をもった。
この西ノ城古墳と同様な双方に突出部をもつものに倉敷市の楯築双方中円形墳丘墓がある。全長約七二メートル、円丘部直径約五〇メートル、高さ約五メートルである。時期は三世紀前後と推定されている。
この二つの双方中円形の墳丘墓を比較すると、西ノ城古墳がやや小型である以外は、いびつな円丘部に円丘部の双方に伸びる短く低い前方部状の突出部があることなどほぼ同じ墳丘形態である。時期は西ノ城古墳

古墳出現期の様相——豊前を中心に——
宇野 慎敏
嵯峨野・秦氏の古墳めぐり
木村 幸子